



# 帯広西ロータリークラブ

# 会報



第2246回例会

2018.10.18



■RI第2500地区テーマ■

行動するロータリー、つながるロータリー  
～ロータリーの未来を考えよう～



■クラブ・テーマ■

常識を疑い、可能性に挑戦する

## 会長挨拶

佐藤 聡 会長

皆様こんにちは。

先週の会長報告で「人口減少に伴う世界的なロータリアンの会員数が減少」に関し述べさせて頂きました。

日本の人口は、2016年で1億2600万人 2040年には1億1000万人 2055年には1億人を割り9700万人になると予想されています。

北海道の人口は平成2年に564万人 平成22年には550万人 平成27年には538万人と減少し、ある統計では22年後の2040年には420万人まで減少すると記されています。

並行して十勝の人口は平成2年に35万6000人 平成22年には34万8000人 平成27年には34万3000人と減少してきています。特に22年から27年の5年で広尾町と本別町では10%の減少率を示しているのは危険水域ではないでしょうか。十勝全体を見ても管内町村は昭和30年をピークに丁度半分まで減少しているというのが実態です。

帯広市の総合戦略推進会議や産業振興会議においても人手不足が最重要課題に挙げられています。労働人口だけでなく、あらゆる産業は人が居てこそ回っているのであり私たち企業人は、商圏地域内における基礎人口が有って初めて商売が成り立っていることを考えると人口減少対策に向けて真剣に考えなければなりません。

北海道十勝に人が集まり住み続けて頂くために

- ・働き甲斐のある職場環境をつくり
- ・子育てに最適な生活空間をつくり
- ・安心して老後を過ごせる地域を創り出す

地域づくりと人づくりを車の両輪と考え、ロータリーに出来ることは「地域を活性化させるリーダーの育成」



ではないでしょうか。

という事で今週は人材育成という観点から「良樹細根」という言葉を紹介させて頂きます。

『根が広く深く 張っていれば 良い樹になる  
根を疎かにして 良い樹になることはない  
水をあげ 肥料をあげ お日様に当て  
寒さから守り 一緒に 泣いたり笑ったり  
何もしないと 枯れてしまう』

以上、会長報告とさせて頂きます。

## 会務報告

小谷典之 幹事

①帯広北RC、移動例会開催のご案内  
日 時 10月19日(金) 午後0時  
場 所 北の杜

②帯広西RC、夜間例会開催のご案内  
日 時 10月25日(木) 午後6時30分  
場 所 北海道ホテル

③帯広東RC、夜間移動例会開催のご案内  
日 時 10月30日(火) 午後6時30分  
場 所 幕別パークホテル悠湯館

④帯広RC、10月31日(水)の例会は、休会と致します。

⑤帯広西RC、移動例会開催のご案内  
日 時 11月8日(木) 午前11時50分集合  
場 所 カールプレックスおびひろ  
(清流東2丁目13-7 TEL67-7234)

※駐車場が限られているので、なるべく乗り合わせをお願い致します。

⑥帯広北RC、夜間例会開催のご案内  
日 時 11月9日(金) 午後6時30分  
場 所 ジグザグ



会 長 佐藤 聡 副会長 内海 仁司 会場監督理事 田中 耕吾 発行：広報委員会  
幹 事 小谷 典之 副会長 渡部 省一 プログラム委員理事 谷脇 正人 委員長 菊池 俊博 (副)松田 貴史



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

## ニコニコ献金

藤本 剛 会員

古田 敦則 ローターリー情報委員長  
本日担当例会です。まじめにやります。  
久保 忠正 会員



11月1日、銘酒会を正次郎で開催します。ご希望の方はお越しください。お待ちいたしております。

奥田 頼昌 会員  
ゴルフ同好会最終回、年の差で優勝しました。

深澤 知博 会員

ゴルフ同好会、念願の年間優勝をしました。

伊東 肇 会員

ゴルフ同好会例会で馬券的中しました。奥田さん飯田さんありがとうございました。

藤本 剛 会員

この前プライベートのゴルフで100切りました。

ニコニコ 献金	10月18日	12,000 円
	累 計	235,000 円 (10月18日現在)

## ◆プログラム

ロータリー情報委員会



## 「ロータリーを考える 田中作治元RI会長の生き方」

古田 敦則 委員長

田中作治さんは1968-69年度東京ロータリークラブの東ヶ崎潔氏(トウガサキキヨシ)、1982-83年度中津ロータリークラブの向笠廣次氏(ムカサヒロジ)に続く日本で3人目として2012-2013年度に「奉仕を通じて平和」というテーマを掲げてRI会長を務められました。

田中さんは現在の新潟県長岡市の過疎地の農家に生まれました。非常に貧しく、中学校卒業後は家を助けるために働く道を選択します。彼は、就職するに当たって2つの誓いをたてます。一つは苦しい家計の中でも自分を育ててくれた両親を助けるために給料の半分を仕送りする事。二つ目は志なかばで成就できなかった学業を修めるために、定時制の学校に通って勉強を続ける事でした。彼は最初東京のガラス工場で働いていましたが、大変忙しく、通学する事もままならない状況が続いたため、田中文具店という町のちいさな文房具屋に転職し、目標であった学業を成就させました。文具店で一生懸命働く彼の姿を見ていた経営者は、後継者がいない事もあって、彼に養子になって店を継いでほしいと申し出ます。彼は逡巡しましたが、両親にも相談し、その申し出を受け、文字通り自分の会社のために猛烈に働き続けました。やがてその会社は町の小さな文具店から家庭紙の卸売業としては日本のトップになるまで成長します。

彼の会社は現在合併を繰り返し株式会社あらたという日本でも有数の日用品卸に発展しました。その合併の最初のスタートとなったのが、当時北海道で化粧品卸として

トップ企業だったダイカとの合併でした。当時両社とも業績は好調であり、どちらが経営のイニシアチブを握るかなど、合併には多くの課題がありましたが、田中さんはダイカの望む合併比率を100%受入れそれを実現させました。それは何より、会社は自分のものではなく社会のためのものであるという彼の信念であり、それが長年お世話になったお客様や会社を支えてくれた社員のためになるが故の決断でした。これは、まさしくロータリーの四つのテストの精神にも通じる考え方ではないかと思います。

田中さんは1975年社業繁栄を目指し東京から八潮に本社を移転し、その際八潮ロータリークラブの創立会員としてロータリーに入会されました。後に彼は、ロータリーに入会した日は、新しい人生を歩み始める第一歩になったと述べています。人々との繋がり、奉仕を通じた満足感や達成感、そして平和をより深く感じるようになり、それはまさしく自分の人生を変えるきっかけになり、そうした経験を一人でも多くの方々に伝えたいとされています。

彼の生き方、そして考え方に接する事は、私たちが人生においてどのようにロータリーと向かい合うかについて多くの示唆を与えてくれます。そして、それはロータリーが一人の人生を変える力を持っている事を示すものでもあります。

八潮ロータリークラブは人口9万人の、北海道で言えば室蘭や岩見沢ほどの規模のどこにでもある地方都市です。東京や大阪といった大都市のロータリーではなく、そうした地方都市からRI会長が生まれたという事も、ロータリーの本質を示す事例ではないかと感じています。



田中作次  
2012-13年度国際ロータリー会長



私は「挑戦」という言葉が好きなので嫌なことであってもまずは挑戦します



本人のやる気しだい夢は99%達成することが出来ます